

令和 8 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立菊川小学校
校長名	谷澤 あゆみ

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
◎ 5 教科全学年において平均正答率は両観点とも全国平均を上回っている。 ○ 国語では 2・4・5・6 年生「思考・判断・表現」が 10 ポイント以上上回っている。この 4 学年については、作文で安定した得点が取れており、物語、説明文の選択回答は正答率が上がっている。5 年生は昨年度全国平均を下回っていたが、下位層児童の底上げに少しずつ成果が見られている。 ○ 社会科では、2 つの資料を合わせて考察する問題、指定された言葉を使って文章で答える問題に誤答・無答が多い。資料から分かることを整理して消去法で回答を選ぶことができてきている児童もいる。 ○ 算数科では、2 年生は 2 桁までのたし算・ひき算は概ねできている。 ・ 4 年生は計算問題で誤答が多く、計算のきまりが定着していない児童も見られる。 ・ 問題文に文章と会話文などが混ざった設問は、問われていることが理解できない児童もあり、誤答、無答が多かった。 ・ グラフや表の読み取りは、下位児童に無答が多くみられた。 ○ 理科では、4 年は植物や昆虫に関する問題はよくできていた。光、磁石、乾電池の回路など実験分野がやや弱い。 5 年は実験結果をよく覚えているが、問題にひねりがあるとそれが読み取れていない。 6 年はふりこの問題につまずきが多かった。 ○ 英語科 6 年では、英会話を聞き取り、回答する問題に誤答が見られる。アルファベットの読み書きがまだ十分でない児童もいる。	◎ 4・5 年の国語の知識・理解、5 年社会の思考判断・表現目標の +5 点以上を目指す。 ・ 国語科では、4・5 年生の漢字書き取り、5 年生の修飾語を主とした文を構成する文節に継続的な指導が必要である。読解において全学年共通する課題は、長文を読み内容を要約する力や要点を文中の短い言葉で書き抜く力の向上である。 ・ 社会科で 4 年「スーパーマーケットが込み合う時間の工夫」や 5 年「用水路の様々な用途」について指定された言葉を使って文章で答える問題に無答・多かったため、筆記回答の仕方に慣れさせる必要がある。 ・ 算数科では 2 年生は文章問題を正確に読んで、図に表す問題、3 年は 3 桁の数の大小であるはまる数字をすべて書き出す問題、単位の違う長さを比較する問題。4 年は 3 桁のたし算、2 桁×2 桁の筆算、小数+整数の計算。5 年は机の面積を概算し選択する問題、6 年は公倍数を使って答えを求める問題につまずきが多かった。定着するまで繰り返し問題に取り組ませる必要がある。 ・ 理科では、4 年の光、磁石、乾電池、虫眼鏡の使い方、5 年温度による水の状態の変化、月の軌道、6 年ふりこ、顕微鏡の倍率、電磁石の極を定着させる。 ・ 英語科 6 年では、「会話を聞いて聞き取る力」(単語を覚え活用する力)を付けさせていく。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「テストで間違えた問題はあとでやり直しをしていますか。」という質問では、2年97.5%、3年93.1%、4年83.3%で(昨年度より8%増)5年73.8%、6年70.3%が「いつもやり直している」「だいたいやり直している」(昨年度より7%減)と回答している。 ・「授業や日常生活の中で不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べていますか。」という質問では、2年63.8%、3年60.3%、4年63.3%、5年52.3%6年67.6%が「いつも調べている」「だいたい調べている」と回答している。 ・「学校の授業では友達と教え合う時間がありますか。」という質問に5年89.2%、6年89.2%が「よくある」「まあまあある」と回答している。また、「グループで話し合う授業は楽しいですか。」という質問に2年93.3%、3年84.5%、4年93.3%が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と回答している。児童主体の活動を促す授業改善は進んでいると判断できる。	・「平日、一日どれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に、「まったくしない」と回答した児童が、2年3.8%、3年6.9%、4年10.0%、5年13.8%、6年16.2%で昨年度より減少している。一部の児童には家庭での学習習慣が身に付いていないため、家庭学習の内容や、方法について個別に指導する必要がある。 ・「一週間に何冊くらい本をよみますか」と言う質問に、「まったく読まない」と解答した児童が2年生28.8%、3年生17.2%、4年生18.3%、5年生18.5%、6年生29.7%いる。校内研究で国語を扱っているため、読書習慣は昨年度より定着しているが、個別に指導が必要な児童もいることが分かった。 ・「勉強するときに自分で計画を立てていますか」という質問に5年64.9%、6年61.5%が「いつも立てている」「大体立てている」と回答している。取り組みたい内容や、自分に必要な内容を意識して取り組むことで、内容の理解・定着がさらに進むものと思われる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・タブレット端末を活用し、画像や動画などの資料提示により児童の興味・関心を高めることができた。また、ロイロノートで様々な考えを比較し、互いの考えを効果的に検討することができた。さらに、社会の新聞づくりや英語学習にもタブレット活用ができた。 ・ミライシードなどのアプリを使って、宿題などで楽しみながら練習問題に取り組む児童が増えた。 ・国語科の研究授業で並行読書を取り入れたことにより、教科書教材の関連読書に取り組む児童が増えた。	・自分の考えに自信をもって発表できるように学習過程を児童によく理解させ、自力解決の時間確保、発表の方法の定着を図る。 出された意見を検討する活動、ふりかえりにも力を入れ、全員が何らかの方法で学習内容の要点をアウトプットできるようにする。 ・学習活動に取り組めない児童には、個々の力に応じた課題を提示し、必ず授業に参加できるように支援する。放課後補充教室で前学年に遡って基礎的・基本的な内容の定着を図る。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 年間を通した学力向上の取組

学習ふりかえり週間、学力パワーアップ週間、国語科並行読書

朝学習・朝読書、放課後補充教室・放課後チャレンジ教室、家庭学習の定着

(2) 課題解決型の学習過程の定着

教師の授業力向上のための授業観察、学習規律の徹底、自力解決の時間の確保、話型の活用
児童相互の話し合い活動の充実、

(3) 校内研究（国語科）の充実

物語文、説明文の指導事項を抑えた授業展開、並行読書

(4) S P表の活用と理科・社会の復習

個別の実態把握、ふりかえりシート、問題データベース、よむYOMUワークシートの活用

(5) 自主学習週間の推進

自主学習週間における個別の課題による自主学習の推進（9月、2月の第3週）

(6) 教師による主体的な授業改善

学力向上委員会による授業改善の推進

本年度の学力向上に関する主な取組（詳細）

(1) 年間を通した学力向上の取組

学力向上委員会を中心に、学力向上のための取組を年間を通して計画的に進める。全学年・全学級で確実に取り組み、各教科において基礎・基本の定着を図る。

時期	主な取組
4月	学力パワーアップ週間①（区学力調査過去問題に取り組む） ○墨田区学習状況調査・全国学力調査
5月・6月	○墨田区学習状況調査の解き直し・解説
7月・8月	区学習状況調査の返却・学力向上プラン作成・個人学習プロフィール作成
9月・10月	自主学習週間①・学習ふりかえり週間①東京ベーシック・テスト①
11月・12月	学習ふりかえり週間② 後期学力状況調査の実施 12/21
2月	自主学習週間②
3月	学習パワーアップ週間②・東京ベーシック・テスト②・学力向上プランの評価

○朝学習・朝読書

毎週火曜日・木曜日・金曜日の8時30分～8時40分、全学級で朝学習に取り組む。

火曜日 国語（漢字練習・漢字ミニテスト・読解プリント（よむYOMUワークシート・音読）

木曜日 読書（私語を慎み、静かな環境で全員が読書に取り組む）

金曜日 算数（計算ドリル・100マス計算・計算プリント・ミライシード）

○放課後補充教室（3～6年）・新チャレンジ教室（1・2年生）

各学級毎月2回 放課後補充教室・新チャレンジ教室を設定し、スクールサポートティーチャーによる補充教室を実施する。各担任が児童のつまずきに応じてプリントを用意する。

○家庭学習の定着

どのような内容をどの程度家庭で行うかを明確に指示し、毎日実施状況を確認して学習習慣を定着させる。教員間の意識の統一を図り、同学年での学級差がないようにする。遅れの見られる児童には個に応じた別課題を出す。

(2) 課題解決型の学習過程の定着

毎時間の授業では、課題解決型の学習や体験学習を取り入れる。児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断し、表現できる能力を育成する。

- 0 前時のふりかえり（既習事項の確認）
- 1 課題提示（学習課題を立てる めあてをつかむ）
- 2 見通し（答えの見通し・解決方法の見通し）
- 3 自力解決（自分で考える・発表の練習をする）
- 4 発表・検討（グループで・全体で考える・よりよい方法を考える）
- 5 まとめ（分かったことをアウトプットする）
- 6 適応問題（定着を図る）ふりかえりシート・問題データベース

- ・学習規律を定着させ、自力解決の時間を確保する。
- ・話形を用いて、自分の意見やその根拠をはっきりと述べられるように指導する。
- ・教師と児童のやりとりでなく、児童相互に意見交換ができるように促す。

(3) 校内研究（国語）の充実

新たに国語科の研究を始めるにあたって学習指導要領にある国語科の指導事項をよく読み込んだ。「読むこと」に示された各学年の内容を意識し学習計画を立てる。段落ごと、場面ごとに細かく分析する手法にこだわらず、教材の核となるところを指導事項に応じて読み込み、伝え合う活動を通してねらいを達成していく。さらに、関連する書籍を多数準備し、並行読書として読み込み、教科書教材と同様に話し合う活動を展開していく。

(4) S P 表の活用と理科・社会の復習

令和8年度の墨田区学習状況調査の結果分析の際には、S P 表を活用し、児童個々の課題とつまずきの多い問題の分析を丁寧に行い、さらに引き上げの必要な観点は、現学年の内容で補充の学習を取り入れるとともに、1学年下の学習内容におけるつまずきを確実に引き継ぎ、次年度の対策を行う。

授業及び家庭学習において「ふりかえりシート」や「問題データベース」のプリントを活用し、習熟を図る。必ず覚えなければならない用語は確実に覚えさせる。授業中に、毎時間ふりかえりの時間を確保し、本時の学習内容について、分かったこと学んだことを文章や言語活動を通じて、アウトプットさせる活動を取り入れる。宿題や自主学習でも、社会・理科の学習に取り組ませ、定着を図る。

(5) 自主学習の推進

9月と2月の第3週目に自主学習週間を設け、全学年で自分の設定した課題に沿って自主学習を行う。学習の進め方は学級で指導し、中・高学年はノートの見開きを1日分として、バッチリメニュー（漢字・

計算等のスキルアップ等)とわくわくメニュー(自分の興味関心を深める自由課題)の2本立てで、バランスよく楽しみながら学習できるようにする。低学年は、学校で学習した内容の復習を自主学習ノートに書いて進める。ほかに自分の興味関心のある内容についての調べ学習等も自由に行ってよいこととし、よい取り組みを広めていく。

(6) 教師による主体的な授業改善

区学力調査の結果を受け、学力向上委員会から授業改善のポイントを提案させる。

「どのような授業が教師主導の授業といわれるのか。」「なぜ児童主体の授業が必要なのか。」について低、中、高学年で議論する時間を設けて改善へつなげていく。(学力向上委員会・学年会)

いまだに散見される教師がしゃべる過ぎる授業や上位児童の発言だけで進んでいく授業をやめ、全員が「分かる」「できる」授業のベースを作る。そのために授業規律の確立、課題解決型授業の展開、話型の定着を柱とし全学級で確実に実践していく。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・全学年、全観点で全国平均正答率+5ポイント以上をめざす。(継続)
- ・全学年のD・E層の割合を20%以下にする。
- ・現5年生の下位層を引き上げ、現4年、5年の漢字の定着を徹底する。
- ・現1年生の国語・算数の基礎力の定着